

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和 7 年度病害虫発生予報第 1 号（4 月）

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和 7 年度病害虫発生予報第 1 号（4 月）

令和 7 年 4 月 7 日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもちの発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 3 月下旬の発生量は平年並	± ±
	赤さび病	平年並	県全域	前年 5 月下旬の発生量は平年並	±
				3 月下旬調査で発病葉は確認していない	－
				4 月の降水量は平年並 4 月の気温は高い	± ＋
	赤かび病	やや多い	県全域	前年 5 月下旬の発生量は多い 4 月の降水量は平年並	＋ ±

・ 防除対策

〔ムギ・赤かび病〕

本日発表の「ムギ類赤かび病情報第 1 号（コムギ、六条大麦）」を参考にしてください。

・ 留意事項

コムギ黄斑病について、一部で発生が多いほ場（主にコムギ連作やダイズとの輪作ほ場）があります。防除対策等は、令和 7 年 3 月 5 日発表の「コムギ黄斑病情報第 1 号」

を参照してください。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、出芽期以降の極端な高温や低温によって発生が助長されます。育苗時の温度管理などに気をつけましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。

スクミリンゴガイは水温 15℃以上で活動を開始し、田植え後約 3 週間までの稚苗を食害します。防除対策等詳細は、本日発表の「スクミリンゴガイ情報第 1 号（水稻）」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	越年発病葉率はやや高い 4月の降水量は平年並	＋ ±
ナシ	赤星病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
	黒星病	やや少ない	県全域	前年の発生量はやや少ない 4月の降水量は平年並	－ ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 4月の降水量は平年並	－ ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	前年夏の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	前年秋期の予察灯への誘殺数は多い チャバネアオカメムシの越冬成虫量は平年並	＋ ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

デランフロアブル（※）、マネーじDFなどで防除しましょう。

※デランフロアブルを使用する場合の注意事項

石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。開花期以降に本剤を使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を 30 日程度あける。

〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「果樹カメムシ類情報第 1 号」を参照してください。

・留意事項

名古屋地方気象台4月3日発表の1か月予報によれば、気温は高いと予想されています。ウンシュウミカンのほ場におけるミカンハダニの発生状況に注意しましょう。

フジコナカイガラムシは、越冬幼虫が3月下旬頃から徐々に新芽や新梢に移動します。前年の発生が多かったカキほ場では、4月中にアブロード水和剤（使用時期：開花期まで 但し、収穫45日前まで）などで防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代の成虫が一部地域のフェロモントラップに誘殺され始めています。成虫はモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

モモのせん孔細菌病対策として、春型枝病斑は伝染源になるので見つけ次第除去しましょう。詳細は「モモせん孔細菌病に対する豊橋式春型枝病斑早期切除技術」を参照してください。

（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/320268.pdf>）

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
トマト (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の気温は高い	－ ＋
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない	－
	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の気温は高い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イチゴ (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔タマネギ・べと病〕

発病株は、周辺株だけでなく周辺ほ場への伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分しましょう。発生を確認した場合や降雨後は、プロポーズ顆粒水和剤やメジャーフロアブルなどで薬剤防除しましょう。なお、収穫時期が近い作型では、農薬登録上の使用時期（収穫前日数）に注意して農薬散布しましょう。

〔キュウリ、イチゴ・灰色かび病〕

本日発表の「灰色かび病情報第1号（キュウリ、イチゴ、トマト、ナス）」を参照してください。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

ヨーバルフロアブル、ベストガード水溶剤などで防除しましょう。天敵を導入している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選定してください。本種はキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介するので、防除を徹底しましょう。

〔イチゴ（施設）・アザミウマ類〕

ディアナSC、ダブルシューターSEなどで防除しましょう。天敵を使用しているほ場では、それらへの影響日数に注意し、農薬を選定してください。

・留意事項

キャベツやブロッコリーの黒すす病が一部地域で問題となっています。早期防除を行いましょう。また発病株は次作の伝染源となるため、収穫残さはすみやかにすき込むかほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

キャベツでは、春～初夏はコナガが発生しやすい時期です。収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。また、本種は薬剤抵抗性の発達が早いため、ローテーション防除を心がけましょう。

トマトでは、3月下旬のコナジラミ類の発生量が多い状況であり、キュウリでもやや多い状況です。コナジラミ類はトマト黄化病や黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病の原因となるウイルスを媒介します。また気温の上昇に伴い更に増殖しやすくなるため、防除を徹底しましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

イチゴのハダニ類は、多発すると防除が困難になるので早めに防除しましょう。また、アザミウマ類の発生量が多いほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして 40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側 20%の度数に入る幅
	やや少ない	同上
	多 い	上記三者の外側 10%の度数に入る幅
	少 な い	同上
発生時期	平 年 並	平年値を中心にして前後 2 日以内
	やや早い	平年値より 3～5 日早い
	やや遅い	平年値より 3～5 日遅い
	早 い	平年値より 6 日以上早い
	遅 い	平年値より 6 日以上遅い

注）平年値＝原則として直近 10 年の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

参考

東海地方の 1 か月予報（名古屋地方気象台 4 月 3 日発表）

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は、高い確率 50%です。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：20% 平年並：30% 高 い：50%

〔降 水 量〕 少ない：30% 平年並：40% 多 い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多 い：40%